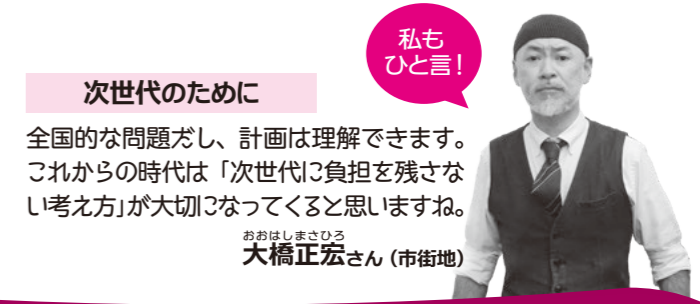


「未来に何を残すのか」 町の答え(計画)、議員の考え



町の答え / 施設の機能充実・質の向上・集約化・複合化により
2016~2055 **40年間で延床面積を33%削減**(*)

「ギカイ」の視点 持たない豊かさ

人口が右肩上がりに増えた時代は公共施設を数多く持つことが町の豊かさでした。しかし、人口が大幅に減少する時代にあっては、それが将来に向けて過度な財政負担となります。子どもや孫たちに大きな負担を残さないことが、将来世代の選択の余地を広げることになります。時代は、大きく変化しています。次世代に「自ら選択する」という豊かさを残したい。

町民文化系施設は

中央公民館
更新時に多機能化・複合化、移転も検討
桜沢コミュニティセンター・用土コミュニティセンター
統合を検討
鉢形コミュニティセンター
鉢形財産区会館へ機能集約し廃止
折原コミュニティセンター
カタクリ体育センターへ機能集約し廃止



公営住宅は

平倉団地、上の原団地、中道南団地、栄町住宅は、入居者の退去に合わせ廃止



城南中・折原小・鉢形小は

2026~2033年度を目処に集約



男衾中・男衾小は

2025年度を目処に集約



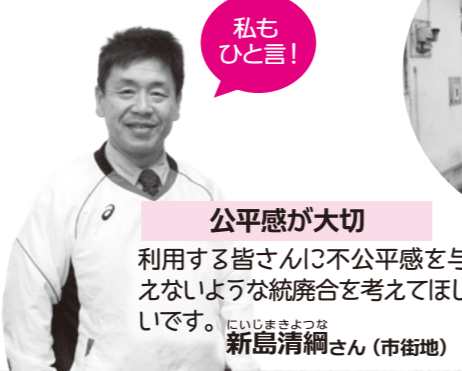
※各校集約の際には、地域コミュニティ施設、学童施設との複合化を検討

寄居中・寄居小・桜沢小・用土小は

2034~2041年度を目処に集約



(*)ハコモノにかかる費用を24.5億円削減。このほか、施設の跡地の売却や行政事務の効率化により、財源不足の解消に努める。



町民意見と共に
将来を考えると苦渋の選択。現状だけでなく、今後の未来をどう考えるかが問題。
ごんだたかし 権田孝史 議員

次世代を見据えて
老朽化が進む中、人口減少により安定した財政運営も困難。適正な見直しを!
ほしみしゅうい 保泉周平 議員

先の先を考える
公共と施設を切り離した議論を深め、施設は思い切った方向付けを示すとき。
おおきたひさかつ 大北久勝 議員

公共施設は避難所
簡単に減らせませんが、隣接の小中学校のみを一貫校にすることで多目的を維持したい。
かさほらのりお 笠原則夫 議員

力を合わせて
統廃合等、その後の使い勝手は不安ですが、力を合わせて新たな管理計画作成を。
なかしまあみお 中嶋文雄 議員

維持管理費の捻出
現状維持は維持管理費を考えると難しい。適切な公共サービスの提供を考えよ。
よしざわやすひろ 吉澤康広 議員

町民との協議を
人口減統廃合でなく、町民との協議で意見を取り入れ地域の核にすべきです。
おおさわ ひろし 大澤 博 議員

持続可能なまちへ
世代を超えて安心・安全なまちを構築し、公共施設の量より質を次世代に継承。
つく いやすお 津久井康雄 議員

既に待ったなし!
人口減少時代、私たちにとって本当に必要な施設とは何か? 残すな 負の遺産。
すずきいこ 鈴木詠子 議員

戦略的集約
コンパクトで持続可能な町を目指すためには、公共施設を戦略的に集約すべき。
おみぞしゅうへい 峯岸克明 議員

町民の理解と協力
将来を見据えた適正な公共施設を設備し、町民に適切な公共サービスの提供。
おかもとやすあき 岡本安明 議員

人口減少を見据え
少子高齢化が加速する中、将来の維持管理費を見据えた施設の削減は必要。
さとうりみ 佐藤理美 議員

今、勇気ある英断
わが町も少子高齢化、急激な人口減少が進む。今こそ将来を見据えた英断を。
いばやまよしあき 稲山良文 議員

将来は大きく変化
過去の恩恵への精算、将来のまちづくり、変化・改革、町民の安心の確保。
たかし 原口 孝 議員

展望もてる計画で
地域に最低限必要な施設は何か、丁寧な説明会と納得を得たうえで進める。
たもがせつこ 田母神節子 議員

選択と集中
道路、橋梁等、老朽インフラは莫大な維持修繕費用が必要。選択と集中で対応。
よしだまさみ 吉田正美 議員

各議員が考える「公共施設のこれから」

公共施設の問題は、議会としても継続して取り組んでいく予定です。